

ボウリング競技会実施要項

1. 競技規則

開催年度の（公財）日本障がい者スポーツ協会制定「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び（公財）全日本ボウリング協会制定「ボウリング競技規則」、並びに本大会の申し合わせ事項を適用する。

2. 参加区分

- (1) 一般レーン
身体障がい、知的障がい、精神障がいの3区分且つ、男女別、年齢区分別とする。
- (2) ノーガターレーン
区分を設けない。

3. 服 装

- (1) ボウリング競技をするうえで支障のない服装とする。
- (2) ソックスは必ず履くこととする。
- (3) ゼッケンは主催者側が交付するものを使用し、競技用服装の背部につける。

4. 練習時間

開会式終了後の10分間を練習時間とする。

5. 招 集

- (1) 招集場所は組み合わせ表記載の各ボウラーズベンチ内とする。
- (2) 招集開始は競技役員が放送で案内し、招集完了時間は競技開始の10分前とする。

6. 競技方法

- (1) 個人競技
 - ①一般部門かノーガター部門のどちらかを選択する。
 - ②2ゲーム行い、合計得点により順位を決定する。
 - ③ゲームは基本的に同一レーン4名で競技する。ただし、人数は申し込み状況によって変わる場合がある。
 - ④ゲームは、同一レーンで2ゲーム続けて投げることとする。（ヨーロッパ方式）
 - ⑤同点の場合は次のa～dの順で決定する。
 - a. 2ゲームの得点が同点の場合は、2ゲームの得点差の少ない者を上位とする。
 - b. 得点差が同じ場合は、ストライク数の多いものを上位とする。
 - c. ストライク数が同じ場合は、スペア数が多いものを上位とする。
 - d. スペア数と同じ場合は、ともに勝者とする。
 - ⑥隣り合ったレーンで同時に投球体勢に入った場合は、右側のレーンの選手優先を厳守する。
- (2) 団体競技
 - ①個人競技出場者で1チーム4名の合計得点を競う。
 - ②同点の場合は個人競技⑤のb～dの順で決定する。

7. その他

- (1) ボウラーズベンチ内に入る者は、選手・付添者・役員に関わらず、全員ボウリングシューズを履くこと。会場のハウスシューズをレンタルする場合、料金は不要とする。競技開始までに各自で選んで準備し、履き替えはボウラーズベンチ内で行うこと。競技終了後は返却場所に返却すること。
- (2) ボウリング場のハウスボールを使用する選手は、ボール置き場に置いてあるボールの中から選んで使用し、競技終了後は元の場所へ返却すること。
- (3) ボールを拭くタオルは、競技会場で用意する。
- (4) オートマチックスコアーの操作、個人記録の記入はすべて競技役員が行う。
- (5) ボウラーズベンチ内への付添者の立ち入りは、選手1名に対して1名までとする。
- (6) 選手は競技中ボウラーズベンチを長時間離れてはならない。トイレ等やむを得ず離れるときは、必ず競技役員の許可を得てから離れること。
- (7) 身体障がい者で、自力で投球ができない選手に限り、投球補助台の使用を許可する。ただし、補助台がファールラインから出ないように注意する。